Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

HGM021-P02 会場:コンベンションホール 時間:5 月 24 日 16:15-18:45

航空レーザ測量による5mDEMを用いた変動地形の観察
Interpretation of landscapes in tectonically active areas using 5 m DEMs from airborne laser scanner data

岩橋 純子 [1*], 大塚　力 [1], 星野　実 [1], 佐藤　忠 [1]
Junko Iwahashi[1*], Tsutomu Otsuka[1], Minoru Hoshino[1], Tadashi Sato[1]

[1] 国土地理院
[1]GSI of Japan

国土地理院では，航空レーザ測量による 5mDEM の作成と基盤地図情報としての公開が進められている．航空レーザ測量による DEM は，樹木や建物を取り除いた地面の状況を観測ができることから，住宅密集地における地盤の微妙な高低差の把握や，樹林下の地形の判読が可能である．

1:25,000 都市圏活断層図の地すべり・段丘面・扇状地等地形分類への適用について，山形県長井盆地周辺の都市圏活断層図の地形分類作業で，余色立体図および陰影段彩図を作成し検討を行った．また，すでに刊行されている詳細活断層図「栗駒山」の範囲において，航空レーザ測量から作成した画像と，写真判読により作成された地形分類図の対比を行った．

凹凸を強調して作った余色立体図は，断層によると考えられる段丘面の傾動や，旧河道・自然堤防など，比較的平坦な地域の判読に優れていた．また，凹凸の強調をせずに作成した余色立体図は，山地の地すべり地形の判読に有用であることがわかった．航空レーザ測量の 5mDEM は，中縮尺の地形を判読するのに適当であり，より大縮尺の空中写真をスポット的に組み合わせる事によって，効果的な地形判読が行えると考えられる．

キーワード: 活断層, 地すべり, 変動地形, DEM, 航空レーザ測量
Keywords: active fault, landslide, tectonic geomorphology, DEM, LiDAR